

川柳マガジンクラブ東京句会 7月

平成22年7月11日(日) 駒込学園にて

参加31名 出席23名 投句8名

小野六平太、小倉利江、加藤品子、加藤ゆみ子、菊地順風、河野桃葉、佐道 正、白子しげる、白勢朔太郎、関 玉枝、高田以呂波、榎瀬くんじ、土江裕美、長谷川康子、藤原栄子、星野睦悟朗、丸山芳夫、水野絵扇、南野耕平、村田倫也、甲野竜雄、植竹団扇、松橋帆波
欠席投句

渥美恵泉、飯島圭子、石田きみ、伊藤三十六、ELVIS、浦川一平、徳島一郎、山田いし

自由吟句評会

ネオン街人もつばめ引き寄せる 玉枝

環境が良くなったのか、ツバメが環境に適合したのか、都会でもツバメの巣を見かけることがある。自動ドアの向うに巣作りする例など。帆波

作者 ネオンという課題で作った作品。その句会では没だったのだが、思い入れがあつて出して見た。ネオンに虫が寄ってくるので、燕が多くなったというニュースを見て思い浮かんだ作品。

温暖化そのうち夏至に雪が降る 恵泉

温暖化とは温かくなる事なのに、何故夏至に雪なのだろう。

絵扇

同じ意見。飛び過ぎているのでは。正

気候変動を極端に描いているのか、現在科学的に言われている温暖化が、その仕組みどおりに進むと、実は寒冷化が始まってしまう、ということなのか、南半球のことなのか。いろいろなることを考えさせられた。帆波

作者 温暖化だといろんな事が起きるんじゃないかなと。

根っからの宇宙の少女「ヤマト」ファン 一郎

作者の思い入れが強い作品に見えるが・・・団扇

作者、ティスカバリー宇宙を覗む直子さん「西日本新聞 ニュース川柳」四月六日田口麦彦選の続きの句です。

二十四時稽古せず寝て食べるだけ 圭子

相撲界の事件のことを皮肉っているのかとは思いますが、どういふ状況が判らなかつた。倫也

判ったよつで判らない。現実として、何もせず寝ているだけというのはどうだろう。朔太郎

作者 角界はまだ危機感を持っていないように思います。大きな体で食べて寝てると言われても、時間も体力もお金も余ってしまうのでしょうか。特殊な世界で一般常識とはかけ離れていると思います。

好奇心先導育児祖父出番 以呂波

意味は判るのだが、あえて漢字ばかりにした理由が判らない。六平太

作者 漢字だけで詠むにはこの表現しかなかった。漢字で

読むことを前提にしたので、意味が判っていただけでは良かった。

カルチャーに吹くポジティブな風が好き 利江

判りやすい句です。団扇

「ポジティブ」を「前向き」として比較する事で、作句時の推敲のヒントになる作品。帆波

作者 家にいると憂鬱な顔をしていることもあるのだが、趣味の会などに出ると、ポジティブになれる。

先生がサラリーマン化し釘をさす 裕美

中八なので「し」はいらなかったのでは。順風
状況が判らない。六平太

「釘を刺す」と「サラリーマン化」がどつつながるか判らなかつた。睦悟朗

作者 タクシーの運転手さんとの会話がヒント。子供が悪いことをして呼び出されたのに、先生の対応が悪く、親が出て行って先生に釘を刺した、と言つことなのですが、上手くまとまりませんでした。

五十路坂擬似恋愛をしてる僕 栄子

五十路になつてもいつも明るく恋をしているのは素晴らしい。桃葉

五十歳じゃなくても恋は出来るのでは。玉枝

作者 ある方の恋愛遍歴で、親子ほど離れた恋愛経験の話聞いた。お相手が高齢で、ある時点でその方を認識できなくなつたというお話。

七夕に牛を気にする織女星 くんじ

口蹄疫の事を上手く詠まれたと思う。品子

作者 口蹄疫の現状。織姫も牽牛の牛を思いやっているのでは。

ゆっくりと血の数式に解かれゆく ELVIS

血というのが血縁、DNAを表しているのか。自分のルーツ、親、祖父母に似てくることなどは。抽象句なので、「血」を流れる血、血縁、民族の血などと感ずてもいい。もちろん感じない人もある。耕平

数式に解かれてゆくの自分なのか誰なのかよく判らない。くんじ

「血」に関する感性が男女で違つたので、解釈も違つてくるだろう。帆波

判らなかつた。何かを感じようとしたが、判らない。倫也
よく判らなかつた。六平太

耕平さんの解説でそうかと思つたが、抽象表現もいいが、景色が見えてこなかつた。利江

意味が読み取れなかつた。以呂波

血の数式は血縁関係。でも何故この表現なのか？絵扇
作者 欠詠なので抜けることは考えず、普段バックストローク誌に出すスタイルで詠んでみました

天国の友と酒くむ雨の午後 竜雄

年取って静かに飲むときに思うのは昔の友のこと。くんじ
いい句だと思つた。雨の午後でびったりきているのか、別の下五があるのか考えさせられた。芳夫

作者 最近同い年の友の急逝にあつた。自宅で彼を偲ん

で飲んでいるときに浮かんだ作品。

憧れの男装したら似合い過ぎ 絵扇

面白いと思う。自分ではそんなつもりはなくてもかなり男っぽい人では。六平太

面白い。この後どうなったか。倫也

作者 若い頃、ボーイッシュだった。着流しなどが似合うのではといわれた思い出。

梅雨入り宣言出た次の日はよく晴れる 正

大体そうなので。裕美

言われてみればそつだなと思う。芳夫

作者 抽象句とは対極の読めば判る作品を目指していません。

協会へ座布団が舞う櫓投げ こじし

野球賭博のことだと思います。玉枝

今の相撲協会の事を読んだ作品 櫓投げが上手い。朔太郎
作者 野球賭博でガタガタとなった相撲協会を詠んでみました。

親友の仲健康が遠避ける 品子

友人が重い病にあるので良く判ります。絵扇

健康であるが故の疎遠では。ゆみ子

いい句だと思いが、「遠ざける」「遠避ける」の表現の可否に気付いたので。睦悟朗

作者 表記へのご指摘ありがとうございます。どこか心配ことがあると連絡を取り合つが、健康で忙しいと疎遠になってしまつ。

二日酔いこの懐かしい不快感 芳夫

不快感と懐かしいという組み合わせがいい。以呂波

避けたいことを懐かしいとしたところが面白い。ゆみ子
快感も不快感も、過去の記憶は懐かしいもの。耕平

若い頃の失敗、青春時代の蹉跎を懐かしむ感じ。帆波

作者 最近は何に一回か、一年に一回くらいしか二日酔いにならないが、その苦しんでいる時に懐かしいような感じがして、もう一人の自分もつと苦しめといっているような感じがするようになりました。

海の日ば毛蟹の足が剃ってある 朔太郎

女性の足では。面白いと思いました。六平太

放映される市場だったら姿形をよく見せる必要もあるもので、こんな事もあるかも。順風

毛蟹の足といつところが発見だと思えます。以呂波

判らなかつた。くんじ

どうして海の日にだけ剃るのだろう。利江

何故海の日に剃らなければならないのか。毛蟹の毛はとても強い、簡単には剃れないはず。康子

海の日催し物があり、町を飾る意味ではないか。町を綺麗にして観光客を迎えるようなことでは。芳夫

判らない。ナンセンスな表現から何を感じるかと言われても、思い浮かばなかつた。耕平

カレンダーか何かの海の日マークでは。毛が無い可愛らしい蟹。竜雄

女性の無駄毛の処理かと思つたが、そこからの広がりがある

手くまとまらない。良い作品かどうかは別として多くの興味を引く作品。家の帆波

あえて問題を提出した。毛蟹は人間。「蟹」を使った作品はこれまでも数多くある。日川協の大会でも「蟹」という課題があり入選した作品です。海の日家族連れ風景。親が子供の手前、無駄毛の処理をしている。朔太郎

嫌われる理由をゴキブリに問われ 三十六

ゴキブリが好きな人はいないと思うが、ゴキブリにすれば災難な話。六平太

逆に嫌われ者のゴキブリから見れば人間がどう見えるか。面白い作品。倫也

家族は皆嫌っています。そんなに嫌うかなあ、という思いでいます。正

面白いが、「理由」を「りゆう」「わけ」どちらで読むか、どこで切るかで、悩みました。睦悟朗

ゴキブリから問われるというのが判らなかつた。絵扇

ゴキブリが開き直つて、どうして嫌いなものとしている点が面白い。玉枝

嫌いな人に直接理由を聞いているのだろうか。朔太郎

作者 殺虫剤やスリッパで何故虐待されるのか、ゴキブリには納得できない。学校の苛めや社会の差別問題にも通じる深刻な問いかけである。

本質を除けたところに輪が出来る しげる

深い作品。輪が出来るところが判り難いが、いい句だと思えました。裕美

一つの真実を突いているところがいい。品子

輪が出来るといふのは人が集つて議論するといふ事だろうが、本質というものは、そんなに除けられるものだろうか。耕平

こつこつことはよくあるなと思います。睦悟朗

本質を除けると輪が出来るとかどうか、判らない。くんじ
作者 「本質」といふ課題で作つた作品です。仕事ではなく趣味の世界などでは、核心に触れないでいるほうが輪が出来るとはと感じ、表現してみました。

風穴をあけに出かける趣味の会 康子

趣味の会には色々な方が集うので、その会を通じて自分では思わない参考になる事を教えられる。風穴を開けるといふ表現が上手い。朔太郎

好奇心が旺盛で出かける事が好きなので、実感句としていただきました。栄子

風穴を開けるといふ表現が良いです。玉枝

作者 趣味だけでなく色々な活動をしていますと、色々な顔と出会え刺激になっています。

風穴を開けるといふ表現は、組織や他のものに対して使われることが多い。自分の生活に風穴を開けるといふ用法はどうだろう。耕平

川柳の省略されている部分をどのように読むか、ということについて参考となる作品。帆波

さりげなく健康をきく一目惚れ 桃葉

この一目惚れは若い方ではないでしょう。利江

好感を持った人に「どつ、お元気」という言葉は掛けやすいもの。くんじ

高齢の方の淡い思い。さりげなく健康を聞いているところがなんとも切ない。帆波

それなりの年齢を限定しているのであれば、「〱の一目惚れ」という限定が欲しい。耕平

年齢は関係なく、話すきっかけがないので健康を聞いたのでは。芳夫

年配の方の想いかと思っただが、それだけかどうか聞きしてみた。品子

作者 わたしは直ぐ一目惚れするのですが、やはり話題は健康のことになります。

サッチモを聞き寝る眠る眠る眠る 六平太

寝つきの悪さが話題になる事が多いのですが、そこにサッチモも持ってきたところが上手い。睦悟朗

「サッチモを」で切って、「聞き寝る眠る眠る」と読んで欲しい。サッチモを他のものに変えると、自分の暮らしと重なります。芳夫

サッチモを聞くと踊りたくなったりするかも思っただが、リズムが良いし、楽しい作品です。康子

ぱっと見たときに非常にモダンです。サッチモに対する思い入れの差で印象が変わるのでは。品子

作者 サッチモのDVDを聞いていると気持ちがいい。**青空を呑むか燕の宙返り 一平**

すつきりしている。上五が良い。竜雄

スケールの大きな作品。団扇

今の季節にピッタリの作品です。品子

動物を冠した作品が好き。景の大きさが良い。倫也

作者コメントはありませんでした。

子等はみな母親色に濃く染まる 睦悟朗

実感句ですね。しげる

みんな母親につくのですね。栄子

作者 家族を見ていて実感することです。

オウンゴールは男子が決める 耕平

オウンゴールが何を指しているのか。倫也

オウンゴールが判らなかつた。品子

サッカー日本代表の中沢選手と闘莉王選手が浮かんだ。睦悟朗

作者 W杯の時期なので、サッカーの言葉を入れて作品を詠んでみたかつた。男性は理屈では女性に勝てない。そこで墓穴を掘ってしまう。それでも「オウンゴールを決めてやっただぜ」というイメージ。

愚痴っても時計の針は戻らない 倫也

過去を遡っても仕方がないという実感。栄子

時計の針は戻せない。過去には戻れないという思いで、前向きに生きていかなければと思う。裕美

年寄りには愚痴が多くなるが、この句で元気をもらわなければと思いました。利江

前向きに考えようと思う。玉枝

もう少し具体性があればいいのだが。正

作者 終った事を今更言っても仕方がないという実感から詠みました。

後ろ指差したことない薬指 団扇

薬指は前にも後ろにも指せない。何かの擬人化なのだろうが、面白い。竜雄

指の使い方に眼を開かせてもらった。面白い。正

やってみると難しいので、よく見つけたなと思った。絵扇

赤い糸が結ばれている崇高な指なので。ゆみ子

作者 指で詠んだ作品。どの指にも表情があり、役割がある。

聴診器心の傷も聞いてくれ きみ

上手な作品。聴診器が心の傷も聞いてくれたなと思います。絵扇

聴診器でストレスが溜まっていますねと言ってくれたら嬉しいと思います。順風

聴診器でエコーのように悪いところを全部診てくれたらいいなと思います。桃葉

聴診器を使わないお医者さんが増えています。心音だけでなく何でも聞いてくれたらいいですね。団扇

今の医療はあまり多くのことを患者にしなくなった。心療内科的な意味も含んで、この作品は良いです。帆波

作者 かかりつけの先生がよい方で、それはそれは痛いところへも触れて。下さいます

小遣いを呉れない墓を掃除する 帆波

亡くなった父親のことが、普段は忘れていて、年に一度くらい墓参りした時の情景。くんじ

「小遣いもくれぬが墓を掃除する」というのが素直な作りだが、「小遣いをくれない」としたところが面白い。芳夫

ユーマ句で面白い。親孝行としての墓掃除なのか、小遣いを貰えないけれど子供たちが掃除をしているのか、呉れないというところから、絆を連想する。利江

生きている間に散々小遣いを貰ったのだから墓の掃除位しなさいよと言ってあげたい。以呂波

どんな親かは表現されていない、語り掛けてもない「呉れない」という表現。ユーマに表現されているけれど逝ってしまつて戻らない親への思い。団扇

作者 芳夫さんの仰つたとおり、表現を変えました。読み方が広がり、楽しんでいただければいい。前の総理のこととつなげて理解していただいてもいい。読みが広げられるような創りにしました。

筋書きの無いドラマにもある布石 順風

下五の「ある布石」という表現が非常に効いている作品です。朔太郎

ドラマの効果音などで気付くように布石がされている。面白い作品だと思えます。しげる

上手い作品だと思えます。しげる

推理小説などでよく布石が打つてある。筋書きがないドラマと思わせておいて、という点。正

作者 スポーツは筋書きのないドラマ。サッカーを見ていて浮かんだ作品。失敗をしても修正しながら戦う。布石の積み重ね。

恋を知りレールを剥がすひとりっ子 ゆみ子

親と子の関係で、親が引いたレールを子供は自分で外していく。親離れをうまく表現している。耕平

子供が成長するとはこういう事なのだろう。順風
自立する頃、好きな人ができると親の言う事を聞かなくなる。康子

親の引いたレールの通りいかないもどかしさ。しげる
独立する時に、親の引いたレールを剥がす勇気を持つというところがいいと思います。桃葉

作者自身が母親だと解釈し、切なさや嫉妬心の混ざったような感情。帆波

作者 今まで素直な子供が独立しようとする感情を詠んでみました。

課題吟「選挙」村田倫也選

「佳作」

投票へ行かないという選択 犬にまでお世辞ふりまく選挙カー

こいし 康子

活断層浮動票共予知不能 応援の方が達者な生徒会

以呂波 団扇

当確をもつ知っているワシントン 泡沫の方が公約おもしろい

EIKUS 正

電話来た候補全部にはいと言う 投票日意見が割れる三世代

睦悟朗 三十六

国を売る一票もある民主主義 物申したい一票が杖を突き

帆波 利江

課題吟「選挙」白勢朔太郎

「佳作」

投票所からの険しい帰り道 落選の選挙ポスター苦笑い

耕平 一平

活断層浮動票共予知不能 一票の歴史へ背く浮動票

以呂波 品子

期日前投票済ます今日のため 出口調査ちよっぴり混ぜる嘘一つ

康子 順風

国民が仕分けしに行く投票日 憂国の志士一票へ吠えたてる

利江 芳夫

新党の書くのに照れるネーミング 選良はいまや廃語の危機に立つ

睦悟朗 睦悟朗

「特選」

選挙戦舛添さんと握手する 選挙戦絶叫をして締めくくる 税制の行方を票に見張らせる

栄子 正 利江

三分間吟「小遣い」小野六平太選

「佳作」

子供にもボーナスがあるお年玉 香典にみな消えているお小遣い

芳夫 ゆみ子

子にもらい孫に回してチャラになる 親は親総理も小遣い貰ってた

睦悟朗 しげる

諸手当で小遣い稼ぎする役所 小遣いを溜めて今年月旅行

帆波 団扇

減った小遣いデフレ痛感 減った小遣い手を出すお小遣い

正 倫也

家飲みに変える不況のお小遣い お父さんから減らされるお小遣い

利江 康子

小遣いの額は人には言えませんが 小遣いを家計簿様に召し取られ

耕平 小遣い 竜雄

三分間吟「勇み足」小倉利江選

「佳作」

整形も済ませた姉がまだ独り 式場を押さえて嫁に逃げられる

ゆみ子 ゆみ子

早とちりいつもどこかで勇み足 人の噂に乗ってしまった勇み足

しげる 桃葉

うっかりと噂話を信じ切る ビデオ判定に頼る勇み足

倫也 康子

君のためなどと身ぐるみ剥がされる 俵から笑われてる勇み足

耕平 芳夫

触れないでおけばよいのに消費税 気の回りすぎるおっちょこちよいもある

芳夫 芳夫

「秀作」
冤罪の海へ刑事の勇み足 根回しを知らず会議をかき回す 首相様税の言葉は言っちゃダメ

帆波 倫也 竜雄

「特選」
勇み足すれすれを刷る輪転機 軸 盛り過ぎうなされているマニフェスト

帆波 利江

以上 まとめ 松橋帆波